

部落改良施設獲得闘争に関する件

櫻、出 九州地方協議会
談 明

全國に散在する六千部落三百萬と稱せられる吾々被圧迫部落大衆は、政治的社会的な逼迫のために、その殆んどが經濟的にも文化的にも極めて低い劣悪悲惨なドン底生活に突き落されてゐる。しかも今日に於いてそれは汚いから、貧乏だから、學問が旨いからといふ差別の口実によつて之とされてゐる。

然し斯かした吾々の状態を作り出した原因は、吾々の責任に帰せらるべき性質のものでは断じてなく、全く差別迫害の結果が

吾々を此処に追ひ込んだのである。試みに想ふても見よ！徳川封建政府の階級政策のギセイに供され、制度上に人間外の人間として烙印を灼きつけられ、如何に言語に絶する迫害に處けられて来たことか。而してまた四民平等の美名のもとに三大義務と引換へに出された明治四年の解放令が果して如何なる保證を吾々に与へたであらうか。明治維新政府は封建武士団三十二万余の解団に當つては二億一千万圓もの（今日の六十億圓以上に在る）膨大多額の口祿俸代

横〇を今へ、また旧藩林・旧知行地を今へて、封建的支配者より資本主義的支配者たらしめ、おまけにその上層階級は華族令に依つて政治的特権さえ与へられた。また一般農民に対しては、地券〇を下附して保護を加へた。それにも拘らず吾々部落大衆に対しては、解放令と引替へに三大義務を新たに擔はせ、皆かりの特権的專業を産業資本家に奪取せしめ、何等の保護政策を執らなかつたのみか却つて露地に陥れる結果さへ作り出した。

だが大正七年八月全国的に勃発した米騒動に際して多数の吾々兄弟が参加した、め部落大衆が常日頃内抱してゐる不平不満と反抗が何時かはまた爆發し一般勤勞大衆の解放運動に合流することの必然性を知らつた

支配階級は極度に怖れて、部落大衆の懐柔策として大正九年に初めて四万三千圓の地方改善費を支出し、更に大正十一年に起され吾々が全國水平社運動が燎原の火の如く瞬く間に発展した勢ひに驚ろき翌年十二年度には地方改善費を一億四十九万一千圓に増額し爾来毎年五十万圓以上を國庫より支出してゐる。

而して地方改善費は國庫の五十万圓と各府縣の同額支費で合計約百万圓以上が毎年出されるが、その約五割は平沼親一郎を盟主とする中央融和事業協会並に全國三十八の反動融和団体に対する融和機關奨励費と、吾々兄弟の中から裏切者融和屋の忠僕をつくるための育英奨励費にカスメとられてゐる。之等インテリゲンチヤを出を停止させずれば現存地元負担でやらせられてお